ノーサイド

北原巌男

照ノ富士

全国の自衛隊員・ご家族の皆さん、本紙読者の皆さんは、どう受け止めておられるでしょうか。

「照ノ富士不屈の道　優勝10回、現役引退　奇跡の復活　唯一無二」（1月18日付け、日本経済新聞）。

横綱照ノ富士（33歳）が、1月17日に引退しました。14年間の力士生活でした。両ひざに大きなサポーターを巻いて取り組む姿は、痛々しささえ感じましたが、在位21場所のうち20場所は一人横綱をはり、国技大相撲を牽引して来ました。

思えば、2008年5月の初土俵以来、日の出の勢いで昇進を続けて来た照ノ富士。2015年7月場所に平成生まれ初の大関となりました。ときに23歳。

しかし、両ひざのけがと持病の糖尿病のため、負け越しや休場が続き、2018年7月場所は幕下に陥落、11月場所では三段目に陥落し、ついに翌2019年3月場所には西序二段48枚目まで陥落してしまいました。残るは序の口のみ。

もはや力士としての希望は完全に消え失せた・・・

僕は、そう思いました。この際、気持ちを切り替えて、別の道で力いっぱいリベンジすればいいじゃないか。

ところが、照ノ富士は違いました。正に唯一無二。序二段陥落から不屈の闘志を以て復活したのです。24場所ぶりの2021年5月場所で大関に復帰。更に2021年9月場所で第73代横綱に昇進しました。序二段まで陥落した力士が最高位の横綱に。もちろん史上初です。

引退を表明した1月17日の記者会見発言主旨。

「親方や奥さん、家族の言葉があったから、もう一回やれることをやってみようと思った。」「いい時も悪い時も一緒にいてくれて、さぼりたい気持ちを奮い立たせてくれたのも奥さん。有難い。」「誰よりも努力して、自分に嘘つかない、自分に負けるな、を自分に言い聞かせて来た。」「マイナスで捉えると何でもうまくいかない。プラスで捉えてやって来た。」「あえて思い出の一番は、平成31年春場所初日の序二段最初の相撲。14年間の中で一番緊張した。」「やるべきことを全力を尽くしてやっていきたいという一つの思いだけで頑張って来た。」「相撲人生を2回楽しむいい機会になった。みんなに支えられてきたことを実感。感謝しかない。」

そして、今後は親方として、「自分に嘘つかない、自分を曲げない力士を育てて行きたい。そういう力士は、必ず強くなる。」

引退に際して、「相撲人生を2回楽しむいい機会になった」と言える人間横綱照ノ富士。一言一言吐露する彼の心情に触れるとき、相撲人生とは全く縁のない僕にも共通する大切な気づきを幾つかもたらしてくれていることにハッとします。

「子供が生まれたからより一層頑張らなければいけないという言葉を聞くんですけれど、自分の中ではそういうのはなく、子供が生まれたからといって、もっと頑張れるんだったらその前に頑張るべきだと思うし、その前からも、やれることをを精一杯やってきたつもりなんで。」

北原　巌男（きたはらいわお）　元防衛施設庁長官。元東ティモール大使。現日本東ティモール協会会長。（公社）隊友会理事